

第 4 回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 平成 27 年 7 月 11 日（土）午後 5 時～

ところ ホテルグランヴィア京都

△森会長挨拶

森府医会長は冒頭の挨拶で、安全保障法制の改正について強行採決になるのではないかとの懸念を示した。さらに、現在の安倍政権は、社会保障への目配りが全くなく、財務省・経産省・厚労省がある意味一体となって強引に法改正を進めている状況について、日本医師会もなすすべがないように見受けられ、これは来年の診療報酬改定に向けて厳しい局面になると予測されると強い危機感を示した。

また、現状府医として出来ることは、地域医療をしっかりと守っていくことに尽きるとして、日常診療や在宅医療等を推進していくため、会員の先生方に対して、大きな手助けができるようサポートしていきたいとの考えを示した。

次に、10 月から始まる医療事故調査制度について触れ、府医としても医療事故調査等支援団体として積極的に取り組みを進めていきたいと意向を示した。

最後に、現在府医と地区で使用している TV 会議システムについて、新しいシステムを導入することを報告し、出来るだけ早い段階で新しいシステムに切り替えられるように進めていくとの意向を示し、挨拶を締めくくった。

△報告ならびに協議事項

1. 庶務関係連絡事項について（谷口理事）

「地区医師会長への連絡依頼事項」を各地区に配布し、諸手続きについて協力を依頼した。

2. マイナンバー制度について（谷口理事）

マイナンバー制度について、現在では不透明なところが多いと前置きした上で、医療機関が一事業所として対応すべき内容について、概要を説明した。

3. 最近の中央情勢について（小野理事）

6 月下旬から 7 月上旬にかけての社会・医療保険状況について、骨太の方針の話題を中心に説明した。

4. 第 41 回京都医学会について（小野理事）

10 月 4 日（日）に「第 41 回京都医学会」を開催することを紹介。一般演題は、7 月 24 日（金）まで受付を延長していることを報告した。また、理化学研究所プロジェクトリーダーの高橋政代氏による特別講演ならびに地域包括ケアをテーマとしたシンポジウムを企画しているとして、多数の参加を呼び掛けた。

5. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

8月・9月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。

6. その他（松田理事）

松田府医理事は、新しいTV会議システムについて、準備が整い次第、各地区に配布していくことを報告した。

7. 地区からのご意見・ご要望（小野理事）

大野庶務担当理事（西陣）から「かかりつけ医とは、どういうものか」という質問に対し、小野府医理事は、日医としての定義では、かかりつけ医には、①医療的機能として、最新の医療情報を熟知し、日常診療においては自己の専門性に基づき、適切な診療を行うとともに、必要な時には専門医や専門医療機関を紹介する機能、②社会的機能として、地域医療、保健、福祉、介護に関する問題についてもそれぞれの関係者と連携して対応できる機能の2つの機能があるとの考え方で、両者を合わせて総合的な能力を有するのがかかりつけ医であると説明した。

また、総合診療専門医との関係について、現状の議論では、地域医療にも対応していくとしているため、区別がつきにくくなっているが、先般開催された日医代議員会における日医の見解としては、総合診療専門医は、あくまでも学術的な資格としての専門医であり、かかりつけ医と総合診療専門医は別物であるという説明がなされたと報告した。